KENWOOD

ステレオインテグレーテッドアンプ/チューナー

R-K1000

取扱説明書

お買い上げいただきまして、ありがとうございました。
ご使用の前に、この取扱説明書をお読みのうえ、説明の通り正しくお使いください。
また、取扱説明書は大切に保管して、必要になったときに繰り返してお読みください。
本機は日本国内専用モデルですので、外国で使用することはできません。

お客様の安全のため、必ず『安全上のご注意』をお読みのうえご使用ください。

株式会社 ケンウッド
Kenwood Corporation

© B60-5711-00/00 (JW) BT

安全上のご注意

⚠ このページは、感電や火災からあなたを守るため、ご使用前には必ずお読みください。

製品を安全にご使用いただくため、「安全上のご注意」をご使用の前によくお読みください。

絵表示について

この取扱説明書では、製品を安全に正しくお使い頂き、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止する為に、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容を良く理解してから、本文をお読みください。

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例

△記号は、注意（警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。
図の中に具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。

⃠記号は、禁止の行為であることを告げるものです。
図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

●記号は、行為を強制したり指示する内容を告げるものです。
図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜け）が描かれています。

お客様または第三者が、この製品の誤使用・故障・その他の不具合およびこの製品の使用によって受けられた損害につきましては、法令上の賠償責任が認められる場合を除き、当社は一切その責任を負いませんのであらかじめご了承ください。

この製品の故障・誤動作・不具合などによって発生した次に掲げる損害などの付随的損害の補償につきましては、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

- お客様または第三者がディスクなどへ記録された内容の損害
- 録音・再生などお客様または第三者が製品利用の機会を逸したことによる損害

この「安全上のご注意」には、当社のオーディオ機器全般についての内容を記載しています。
（説明項目の中には、本文での説明と重複する内容もあります）

⚠警告

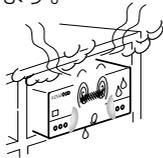
交流100ボルトの電圧で使用する

この機器は、交流100ボルト専用です。指定の電源電圧以外で使用すると、火災・感電の原因となります。

船舶などの直流（DC）電源には接続しない

火災の原因となります。

通風孔をふさがない

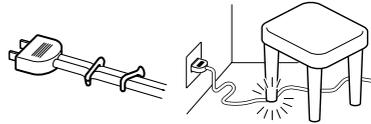
- あおむけや横倒し、逆さまにして使用しない。
- 布を掛けたり、じゅうたん、布団の上に置いて使用しない。
- 風通しの悪い狭い所で使用しない。通風孔がふさがると、内部に熱がこもり、火災の原因となります。

風呂、シャワー室では使用しない

風呂、シャワー室など湿度の高いところや、水はねのある場所では使用しない。火災・感電の原因となります。

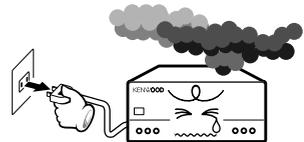
水をかけたりぬらしたりしない

火災・感電の原因となります。
雨天、降雪中、海岸、水辺での使用は特にご注意ください。

電源コードを傷つけない

電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したり、ステープルや釘などで固定したりしない。
電源コードの上に重いものをのせたり、コードを本機の下敷きにしたりしない。コードを敷物などで覆ってしまうと、気づかずに重いものをのせてしまうことがあります。コードが傷つき、火災・感電の原因となります。

電源コードが傷ついたら（芯線の露出、断線など）販売店または当社サービス窓口に交換をご依頼ください。
そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

異常が起きた場合は電源プラグを抜く

内部に水や異物が入ったり、煙が出たり、変な臭いや音がしたりした場合は、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜く。そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。
煙や、異臭、異音が消えたのを確かめてから修理をご依頼ください。

⚠警告

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない

感電の原因となります。

電源プラグを定期的に清掃する

電源プラグにほこりなどが付着していると、湿気等により絶縁が悪くなり、火災・感電の原因となります。
電源プラグをコンセントから抜いて、乾いた布で取り除いてください。

きれいにしましょう

機器の上に花びんやコップなど水の入った容器を置かない

水がこぼれて中に入ると、火災・感電の原因となります。

機器の内部に水や異物を入れない

機器の通風孔、開口部から内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落とし込んだりしない。
火災・感電の原因となります。

機器のケースを開けたり改造したりしない

内部には電圧の高い部分があり、火災・感電の原因となります。
点検、修理は販売店または当社サービス窓口にご依頼ください。

雷が鳴り始めたらアンテナ線や電源プラグには触れない

感電の原因となります。

落下した機器は電源プラグを抜く

機器を落としたり、カバーやケースがこわれたりした場合は、電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて、点検、修理をご依頼ください。
そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

電池は乳幼児の手の届かないところに置く

電池をあやまって飲み込むおそれがあります。ボタン電池など小型の電池は特にご注意ください。
万一、お子さまが飲み込んだ場合は、ただちに医師と相談してください。

乾電池は充電しない

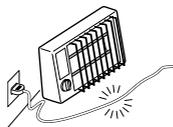
電池の破裂、液もれにより、火災・けがの原因となります。

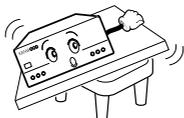
機器の上にろうそくやランプなど火のついた物を置かない

本機のカバーやパネルにはプラスチックが使われており、燃え移ると火災の原因となります。

⚠注意

電源コードを熱器具に近づけない

電源コードを熱器具（ストーブ、アイロンなど）に近づけない。
コードの被覆が溶けて、火災・感電の原因となることがあります。

不安定な場所に置かない

ぐらついた台の上や傾いた所など、不安定な場所に置かない。
落ちたり、倒れたりして、けがの原因となることがあります。

湿気やほこりの多い場所に置かない

油煙や湯気の当たる調理台や加湿器のそば、湿気やほこりの多い場所に置かない。
火災・感電の原因となることがあります。

温度の高い場所に置かない

窓を閉めきった自動車の中や直射日光があたる場所など、異常に温度が高くなる場所に放置しない。
本体や部品に悪い影響を与え、火災の原因となることがあります。

アンテナ工事は販売店に相談する

工事には、技術と経験が必要です。アンテナは送配電線から離れた場所に設置してください。アンテナが倒れた場合、感電の原因となることがあります。

電源プラグはコンセントに根元まで確実に差し込む

差し込みが不完全ですと発熱したりほこりが付着したりして、火災の原因となることがあります。また、電源プラグの刃に触れると、感電の原因となることがあります。電源プラグを根元まで差し込んでもゆるみがあるコンセントの場合には、販売店や電気工事店にコンセントの交換を依頼してください。

長期間使用しないときは電源プラグを抜く

旅行などで長期間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く。
火災の原因となることがあります。

移動させるときは電源プラグを抜く

移動させるときは、電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜き、アンテナ線、接続コードを外す。
コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

お手入れの際は電源プラグを抜く

お手入れの際は電源プラグをコンセントから抜く。感電の原因となることがあります。

電源プラグを抜くときは電源コードを引っ張らない

コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。
必ずプラグを持って抜いてください。

⚠注意

機器の接続は取扱説明書に従う

関連機器を接続する場合は、各々の機器の取扱説明書をよく読み、電源を切り、説明に従って接続する。また、接続は指定のコードを使用する。
あやまった接続、指定以外のコードの使用、コードの延長をすると発熱し、やけどの原因となることがあります。

機器の上に重いものや外枠からはみ出るような大きな物を置かない

バランスがくずれて倒れたり、落下したりして、けがの原因となることがあります。

機器に乗らない

機器に乗ったり、ぶら下がったりしない。特にお子様にはご注意ください。
倒れたり、こわれたりして、けがの原因となることがあります。

はじめから音量を上げすぎない

突然大きな音が出て、聴力障害などの原因となることがあります。特にヘッドホンをご使用になるときは注意してください。

耳を刺激するような大きな音で長時間続けて聞かない

聴力に悪い影響を与えることがあります。特にヘッドホンをご使用になるときは注意してください。

長時間音が歪んだ状態で使わない

スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。

ひび割れディスクは使わない

ひび割れ、変形、または接着剤などで補修したディスクは使用しない。ディスクは機器内で高速回転しますので、飛び散って、けがの原因となることがあります。

レーザー光線をのぞき込まない

レーザー光が目に当たると、視力障害を起こすことがあります。

ディスク挿入口に手を入れない

手がはさまれて、けがの原因となることがあります。特にお子様にはご注意ください。

定期的に内部の点検、清掃をする

3年に1度程度を目安に、機器内部の点検、清掃をお勧めします。販売店、または最寄りのケンウッドサービス窓口に費用を含めご相談ください。
内部にほこりのたまったまま長い間掃除をしないと、火災や故障の原因となることがあります。

⚠注意

電池の取り扱いに注意する

次のことを、必ず守ってください。

- 極性表示（プラス"+"とマイナス"−"の向き）に注意し、表示どおりに入れる。
- 指定の電池を使用する。
- 使い切ったときや、長期間使用しないときは、取り出しておく。
- 新しい電池と古い電池を混ぜて使用しない。
- 違う種類の電池を混ぜて使用しない。
- 電池は、加熱したり、分解したり、火や水の中に入れたりしない。

電池は誤った使い方をすると、破裂、液もれにより、火災、けがや周囲を破損する原因となることがあります。
電池を入れたままにしておくと、過放電により液がもれ、けがややけどの原因となることがあります。
液がもれた場合は、点検、修理をご依頼ください。万一、もれた液が身体についたときは、水でよく洗い流してください。

こんなことができます

いろいろな機器に対応した
外部入力端子

レコードプレーヤーやカセットデッキなどのアナログ入力端子に加え、デジタルオーディオプレーヤーの入力端子を搭載しています。
さらにデジタルチューナーなどを楽しむための、サンプリングレートコンバーター対応デジタル入力端子を搭載しています。

設置環境に合わせて、最適な音響空間を設定する
ルームイコライザー

部屋のレイアウトやシステムの設置場所に応じて、最適な音響設定を自動で行います。付属のマイクをリスニングポジションに設置し、ルームイコライザーをスタートさせるだけの簡単操作です。

原音に近いリアルなサウンドを再生する
Supreme EX（サプリーム EX）

原音に含まれていた高帯域信号を再現することにより、限りなく原音に近いリアルなサウンドを甦らせる、ケンウッド独自の音質向上技術です。
音楽CDやデジタル入力の場合は、20kHz以上の高音域を再現します。
さらにCDプレーヤー（DP-K1000：別売）と接続し、オーディオファイル（MP3/WMA/AAC）を再生するときは、データ圧縮によって失われた高音域を再現します。

小音量のときでも高音質を楽しめる
Clear Aモード

小音量時でもバランスよく滑らかな高音質再生が楽しめる「Clear A」モードを採用しました。セットの近くで聴くときや、夜間など小音量で聴くときに適したモードです。

便利で簡単操作
システムコントロール機能

本機とCDプレーヤー（DP-K1000：別売）をシステムコントロール接続すると、電源のオン/オフの連動や本機付属のリモコンでCDプレーヤーの基本操作が可能になります。

もくじ

このマークのついた項目は、安全確保のために必ずお読みください。

お使いになる前に

必ずお読みください

音源別操作編 P.27

音源別に接続や操作の方法を説明します

・FM/AMラジオ
・外部機器
・D.AUDIO

音質設定編 P.39

お好みの音で聞く方法を説明します

・ROOM EQ（ルームイコライザー）
・デジタルサウンドイコライザー
・サウンドプリセット
・Supreme EX
・Clear A
・BALANCE

機器設定編 P.53

本機の各種設定方法を説明します

・時刻設定
・タイマー設定
・ディスプレイ設定
・オートパワーセーブ

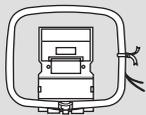
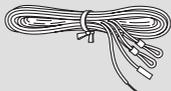
保守編 P.63

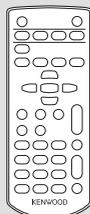
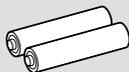
長くお使いいただくために

・メッセージ表示一覧
・故障かな？と思ったら
・保管とお手入れ
・保証とアフターサービス
・ケンウッド全国サービス網
・定格

付属品について

付属品

AMループアンテナ
（1個）

FM室内アンテナ
（1本）

ルームイコライザー用マイク
（コード約 5m：1個）

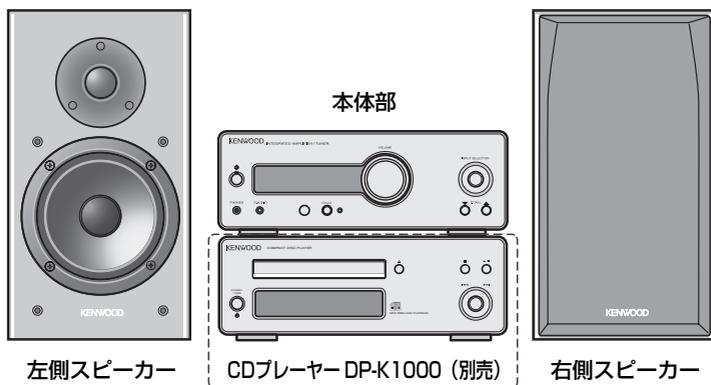
リモコン
（RC-R0830：1個）

リモコン用乾電池
（単4形：2本）

このシンボルマークはケンウッドにおいて環境に対する影響を軽減した商品であることをお知らせするマークです。

設置するときは

本機を設置するときのご注意

● 必ず平らで安定した場所に設置してください。台などの上に設置する場合は、必ず台の強度を確認してください。
● スピーカーの磁気により、テレビやパソコンの画面に色ムラが発生することがあります。テレビやパソコンから少し離して置いてください。

本体部

左側スピーカー　CDプレーヤー DP-K1000（別売）　右側スピーカー

⚠ 注意

機器を設置するときは、下記のことをお守りください。放熱が十分でないと、内部に熱がこもり、故障や火災の原因となることがあります。

● 機器の上面に、放熱の妨げになるものを置かないでください。
● 機器の各面から、下記に示すスペースを空けてください。
上面：50cm以上　背面：10cm以上
● CDプレーヤー（DP-K1000：別売）は、本機の下に設置してください。

機器は電源コンセントに容易に手が届く位置に設置し、異常が起きた場合すぐに電源プラグをコンセントから抜いてください。
また、電源スイッチを切っただけでは機器は電源から完全に遮断されません。
完全に遮断するには、電源プラグを抜いてください。

音響効果を楽しんでいただくために

スピーカーの配置によって音は変化します。よりよい音質をお楽しみいただくために下記を参考にしてください。

● 左右のスピーカーの周囲の環境をできるだけ同じにする。左右のスピーカーを壁から離れたところに設置し、窓に厚手のカーテンなどを掛けて、できるだけ音の反響を少なくする。
● 左右のスピーカーの間隔を広げる。
● 鑑賞時の耳の位置と同じ高さに設置する。

ステレオ音のエチケット

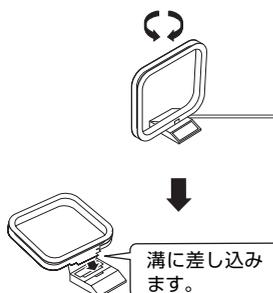
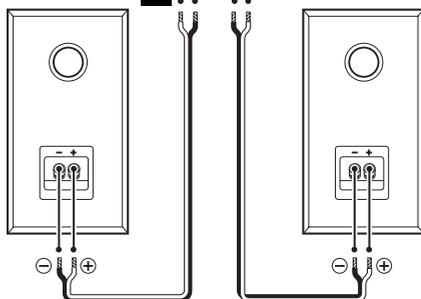
楽しい音楽も、時と場所によっては気になるものです。隣り近所への配慮を十分いたしましょう。ステレオの音量は、あなたの心がけ次第で大きくも小さくもなります。特に静かな夜間には、小さな音でも通りやすいものです。夜間の音楽鑑賞には、特に気を配りましょう。窓を閉めたり、ヘッドホンをご利用になるのも一つの方法です。お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

接続のしかた

基本接続

すべての接続コードは確実に差し込んでください。差し込みが不完全な場合は、音が出なくなったり、雑音が発生することがあります。

接続上のご注意

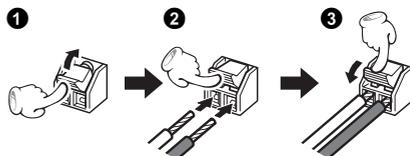
接続が終了するまで、電源コードのプラグをコンセントへ差し込まないでください。
接続したコード、ケーブル類を抜くときは、事前に必ず本体の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。

マイコンの誤作動について

正しく接続したのに正常に動作しない場合や、ディスプレイが誤った表示をする場合はマイコンをリセットしてください。（P.66）

1 AMループアンテナの接続

付属のアンテナは室内用です。本機、TV、スピーカーコード、電源コードからできるだけ離れたところで、受信状態の一番よい方向に向けます。

●アンテナコードの取り付け方

AMアンテナコードを右記のようにして、導線(赤)を**[AM]**端子の右側に、導線(白)を左側に接続します。

2 FM室内アンテナの接続

付属のアンテナは室内用の簡易アンテナです。安定した受信のためには、屋外アンテナ（市販品）の接続をお勧めします。屋外アンテナを接続する場合には、簡易アンテナは取り外してください。

3 スピーカーの接続

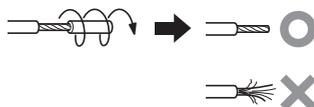
スピーカーコード接続の注意

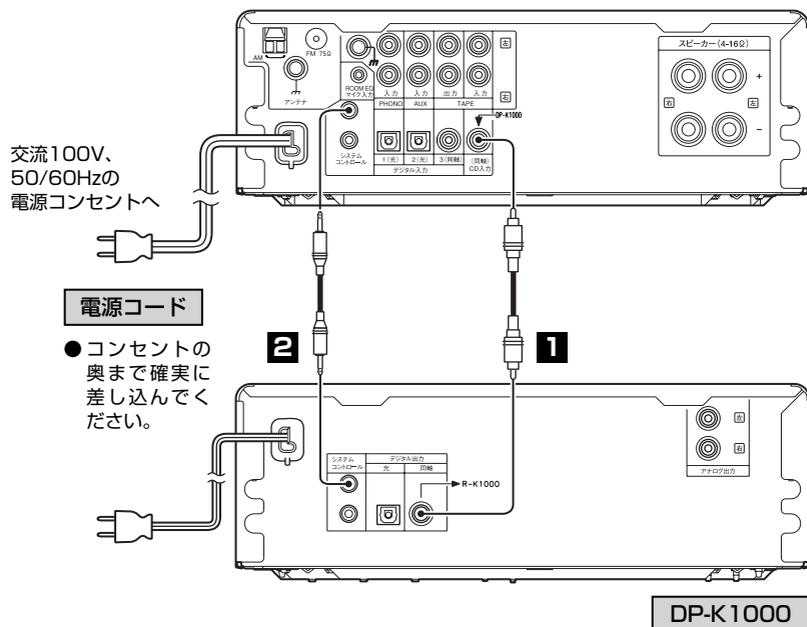
スピーカーコードの＋と－は絶対にショートさせないでください（+と－のコードを接触させないでください）。極性＋と－を間違えて接続すると、楽器などの音源位置がはっきりしない不自然な音になります。

●スピーカーコード先端の処理のしかた

コード先端のビニール部分は、ねじりながら抜き取ります。

●スピーカーコードの取り付け方

ねじりながら抜く　つまみを緩める　コードを差し込む　つまみを締める

CDプレーヤー（DP-K1000：別売）との接続

- 接続するときは、DP-K1000の取扱説明書もあわせてご覧ください。
- すべての接続コードは確実に差し込んでください。差し込みが不完全な場合は、音が出なくなったり、雑音が発生することがあります。

1 CD入力（同軸）

DP-K1000に付属のCOAXIAL（同軸）コードを使って、DP-K1000の**[デジタル出力（同軸）]**端子を本体背面部の**[CD入力（同軸）]**端子に接続します。

2 システムコントロール

DP-K1000に付属のシステムコントロールコードを使って、DP-K1000の**[システムコントロール]**端子を本体背面部の**[システムコントロール]**端子に接続します。

- 本機をDP-K1000以外のCDプレーヤーと接続する場合、アナログ接続のときはCDプレーヤーの音声出力端子を本体背面部の**[AUX入力]**端子に接続します。デジタル接続のときはCDプレーヤーの光デジタル出力端子を本体背面部の**[デジタル入力１（光）]**または**[デジタル入力2（光）]**端子に、同軸型出力端子のときは**[デジタル入力3（同軸）]**端子に接続します。

他の機器（市販品）との接続

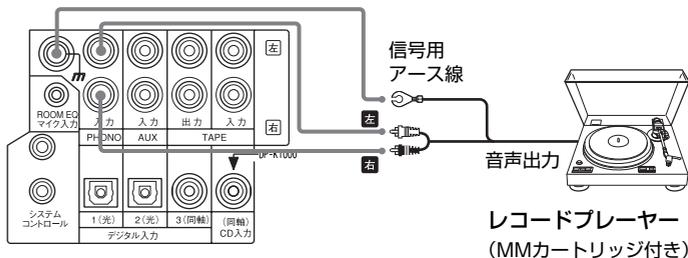
● 関連システム機器を接続するときは、関連機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。
● すべての接続コードは確実に差し込んでください。差し込みが不完全な場合は、音が出なくなったり、雑音が発生することがあります。

⚠ 屋外アンテナの設置上のご注意

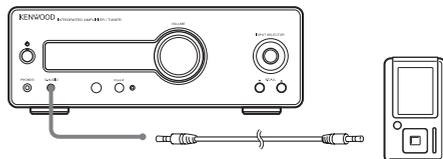
アンテナ工事には、技術と経験が必要ですので、販売店にご相談ください。アンテナは送配電線から離れた場所に設置してください。アンテナが倒れた場合、感電の原因になることがあります。

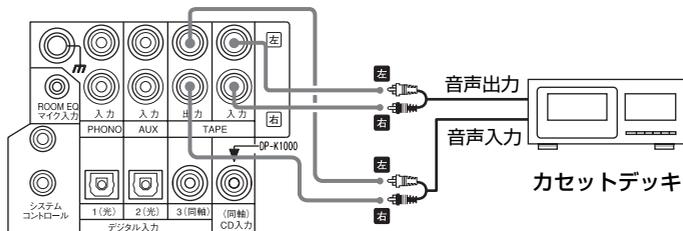
PHONO入力

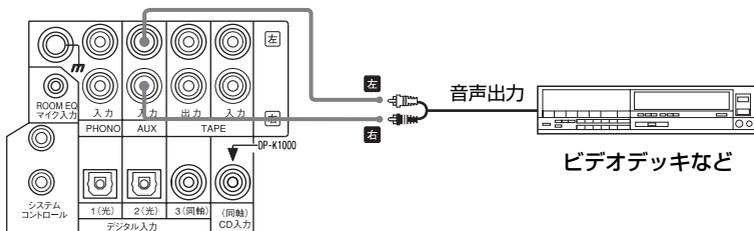
MMカートリッジ付きレコードプレーヤーを本体背面部の**[PHONO入力]**端子に接続します。

● [ᎋ]端子（アース端子）はアナログレコードプレーヤーを設置した場合の雑音の低減をはかるためのものです。安全アースではありません。
● イコライザーアンプ内蔵のレコードプレーヤーは**[AUX入力]**端子に接続してご使用ください。
● MCカートリッジ付きのレコードプレーヤーを本機に直接つなぐことはできません。専用のイコライザーアンプをつないでから**[AUX入力]**端子に接続してください。

D.AUDIO

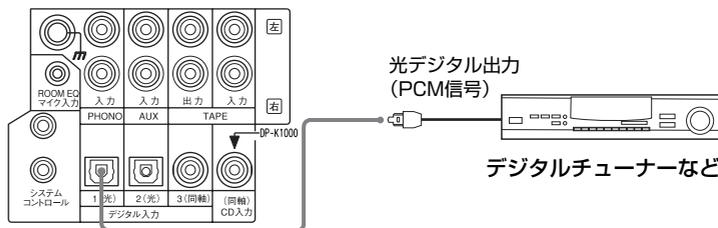
デジタルオーディオプレーヤーを本体前面部の**[D.AUDIO]**端子に接続します。

● デジタルオーディオリンク対応プレーヤー（ケンウッド製）を専用ケーブルPNC-150（別売）で接続すると、本機やリモコンを使って操作できます。（P.36）
その他のデジタルオーディオプレーヤーは、3.5mmステレオミニプラグケーブル（市販品）を使って接続できます。
● お使いにならないときは、ミニプラグケーブルを本体から抜いてください。

TAPE入力／出力

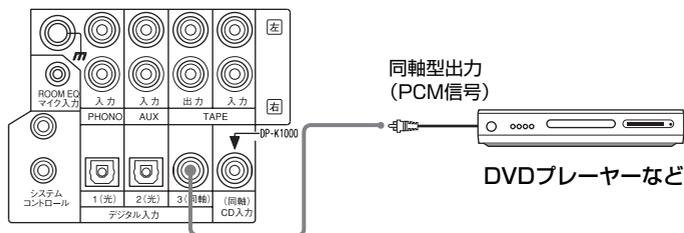
カセットデッキの音声出力端子を本体背面部の**[TAPE入力]**端子に、音声入力端子を**[TAPE出力]**端子にそれぞれ接続します。

AUX入力

ビデオデッキなどの音声出力端子を本体背面部の**[AUX入力]**端子に接続します。

デジタル入力1、2（光）

デジタルチューナーなどの光デジタル出力端子を本体背面部の**[デジタル入力1（光）]**または**[デジタル入力2（光）]**端子に接続します。

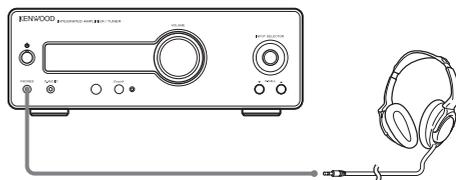
● 接続機器のデジタル音声出力設定を「PCM」にしてください。

デジタル入力3（同軸）

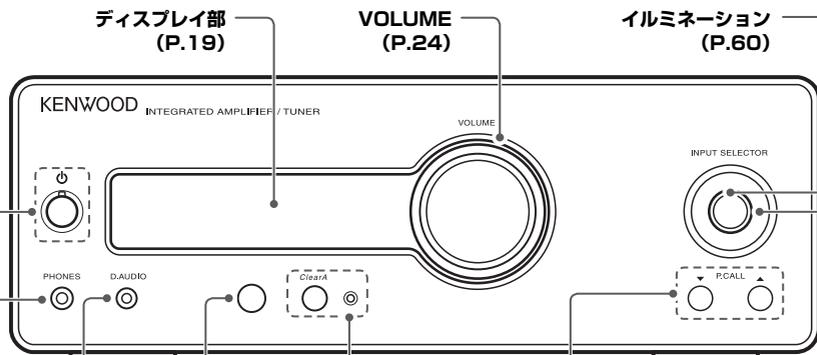
DVDプレーヤーなどのデジタル同軸型出力端子を本体背面部の**[デジタル入力3(同軸)]**端子に接続します。

● 接続機器のデジタル音声出力設定を「PCM」にしてください。

PHONES

3.5mmステレオミニプラグつきのヘッドフォンを本体前面部の**[PHONES]**端子に接続します。

● ヘットホンを接続するとスピーカーから出る音は消音されボリュームの調整範囲が－∞から0dBになります。

HP VOL -40dB

各部のなまえと働き

本体部

スタンバイ状態について

本機のスタンバイ インジケーターが点灯中は、メモリー保護のため、微弱な通電が行われています。これをスタンバイ状態といいます。またこの状態のとき、リモコンで本機の電源をオンにできます。

システムコントロール接続について

本機をDP-K1000（別売）とシステムコントロール接続しているとき、本機は次のように動作します。

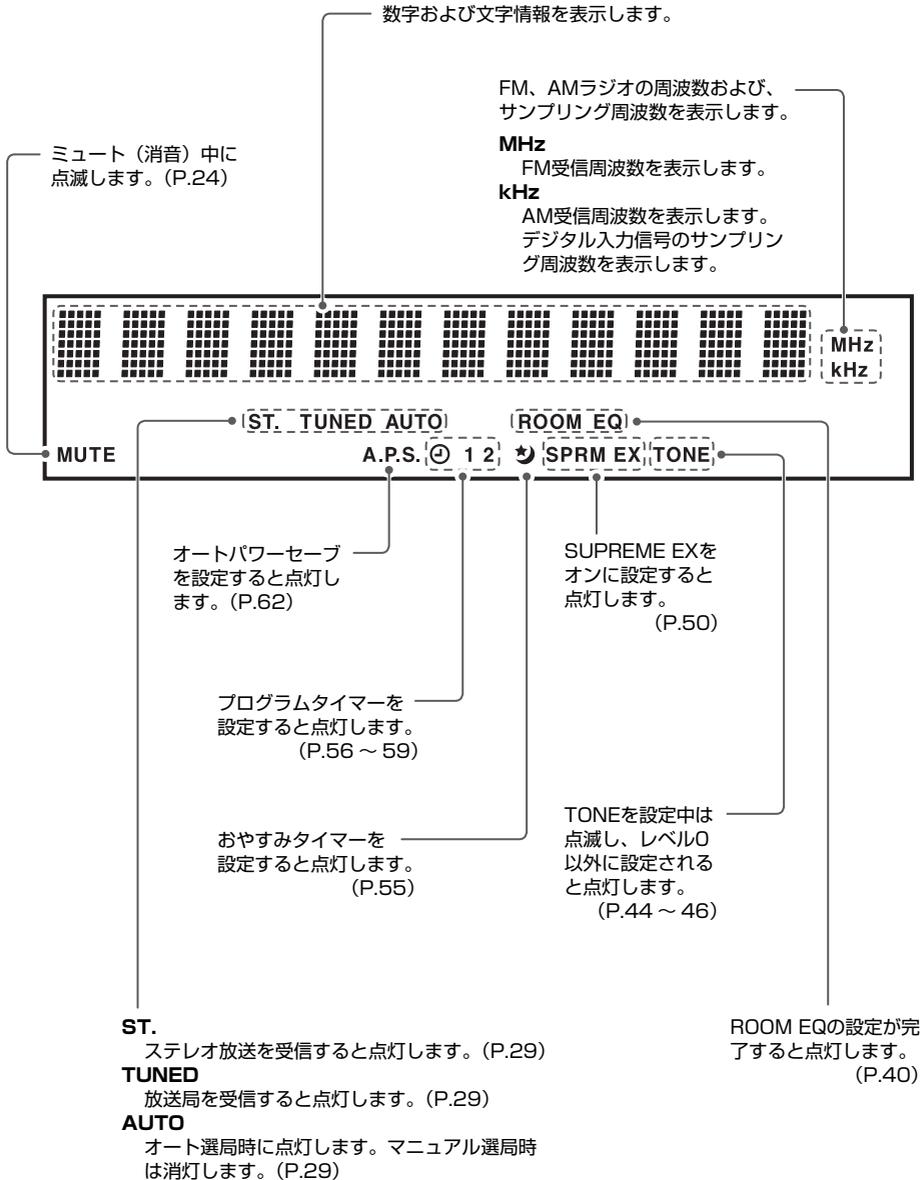
- DP-K1000でCDが再生されると本機の入力が自動的にCDに切り換わり、本機のリモコンを使ってDP-K1000のCD操作ができます。
- 本機の電源をオン/オフすると、DP-K1000の電源も連動します。
- 本機でDIMMER、ディスプレイセーバー、オートパワーセーブ機能を設定すると、DP-K1000でも連動します。

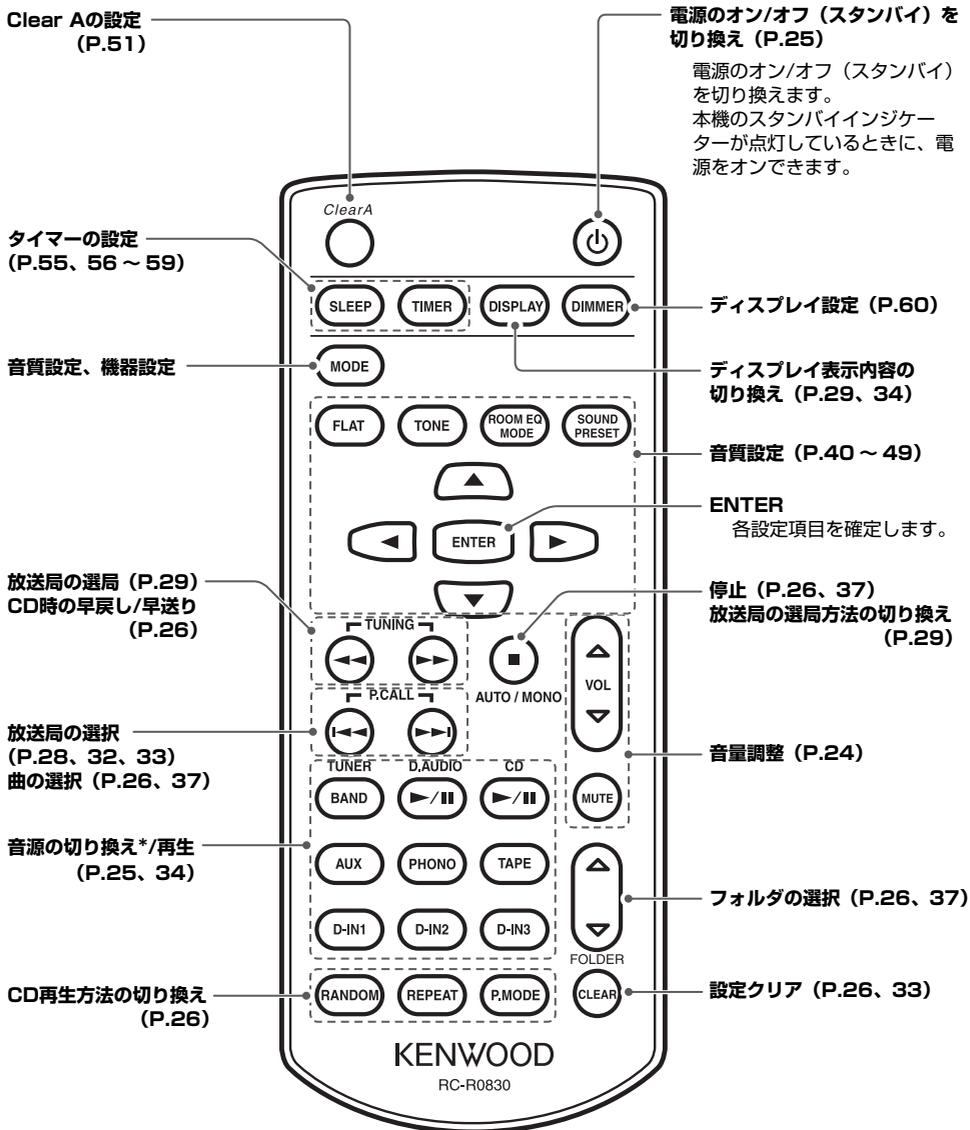
ディスプレイ部

本文中のディスプレイ表示は、
実際の表示と異なる場合もあります。

ST.
ステレオ放送を受信すると点灯します。（P.29）

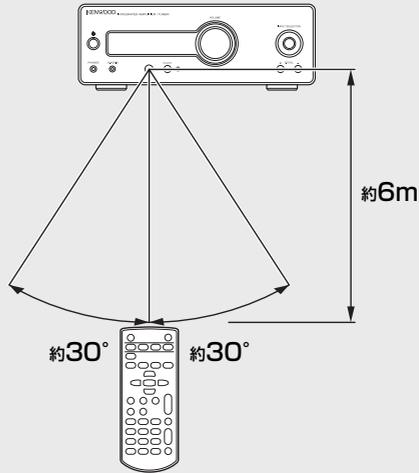
TUNED
放送局を受信すると点灯します。（P.29）

AUTO
オート選局時に点灯します。マニュアル選局時は消灯します。（P.29）

リモコン部

本体部と同じ名前のキーは、本体部と同じ働きをします。

ワンタッチオペレーション機能について

本機は便利なワンタッチオペレーション機能を備えています。スタンバイ状態のとき、リモコンの音源切り換えキー *を押すと本機の電源がオンになります。

操作のしかた

本体の電源プラグをコンセントに差し込み、リモコンの電源[⏻]キーを押すと、電源がオンになります。
電源がオンになったら、操作したいキーを押します。
リモコンは本体のリモコン受光部に向けて使用してください。

● リモコン受光部に直射日光や高周波点灯（インバーター方式等）の蛍光灯の光が当ると、正しく動作しないことがあります。このような場合、誤動作を避けるために設置場所を変えてください。

リモコンの電池の入れ方

① 電池カバーを外します。

② 付属の単4形乾電池を入れます。

● 電池の極性（⊕⊖）に注意して入れてください。

③ 電池カバーを閉じます。

● 付属の乾電池は動作チェック用のため、寿命が短いことがあります。

● 電池を交換するときは、2本とも新しい乾電池と交換してください。

本書の見方

操作手順です。

本機はリモコンでも本体でも操作できる機能がありますが、本書では主としてリモコンによる操作手順を表記しています。

操作で使う
リモコンのキーです。

操作中または操作後の
ディスプレイ表示です。

● この取扱説明書のディスプレイ表示は実際のディスプレイ表示とは異なる場合があります。

各操作のアイコンです。

ラジオの操作方法を説明します。

外部機器の操作方法を説明します。

デジタルオーディオプレーヤーの操作方法を説明します。

音質設定の操作方法を説明します。

機器設定の操作方法を説明します。

本機の保守について説明します。

本体での操作説明です。

リモコンでの操作説明です。

さらに便利に使うための関連機能です。

外部機器

関連情報
- 「他の機器（市販品）との接続」→P.15～17
- 音質設定→P.39～

外部機器の入力レベルを調整する

[PHONO 入力]、[TAPE 入力]、[AUX 入力] 端子に接続した外部機器の入力レベルを調整することができます。
同じボリュームでも外部機器からの音量がほかの音源より大きく、または小さく感じた場合は調整してください。

1 **入力レベルを調整したい音源を選ぶ**

[INPUT SELECTOR]つまみをまわして入力レベルを調整したい音源を選ぶ

- PHONO、TAPE、AUXそれぞれの入力ごとに、入力レベルを調整できます。

2 **[MODE]キーを押す**

3 **「INPUT LEVEL」を選ぶ**
[▲]または[▼]キーを押す

INPUT LEVEL

▼

[ENTER]キーを押す

4 **入力レベルを設定する**
[▲]または[▼]キーを押す

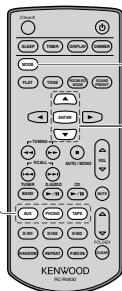
LEVEL +1

- －3～＋5の範囲で調整できます。

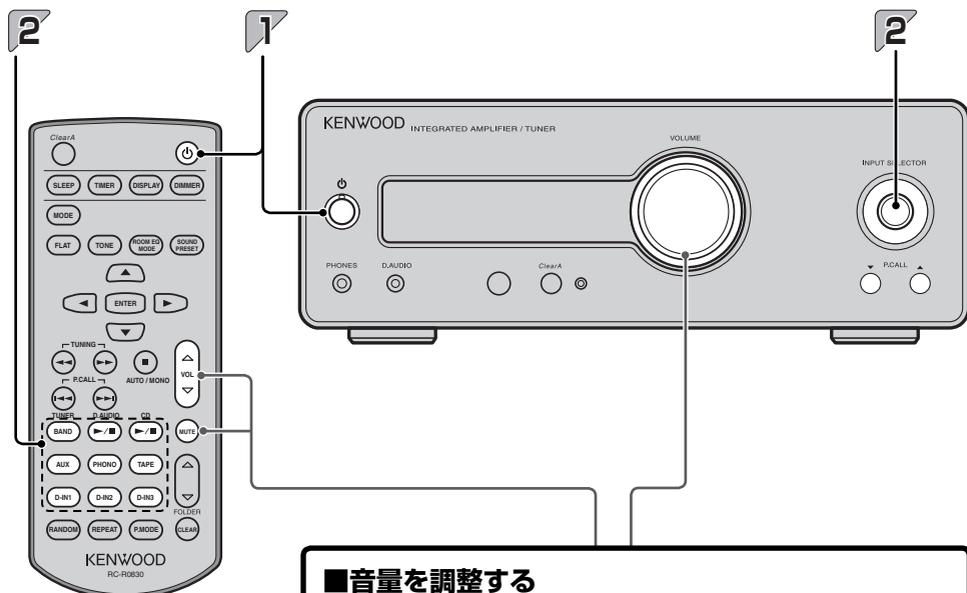
▼

[ENTER]キーを押す

- PHONOまたはAUXの入力レベルを調整すると、**[TAPE出力]**端子からの出力レベルも変化します。

35

基本的な使い方

ここでは本機の基本的な使い方として、電源のオン/オフ、音源の選択、音量の調整について説明します。

準備　接続を確認してください。（P.12 ～ 17）
リモコンを準備してください。（P.21）

■音量を調整する

■一時的に消音する（ミュート）

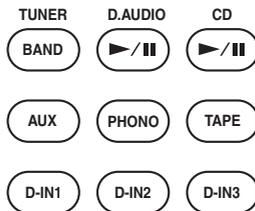
● ミュートを解除するにはもう一度押します。

電源をオンにする（オフにする）

- リモコンの**[BAND]**、**[D.AUDIO]**、**[CD]**、**[AUX]**、**[PHONO]**、**[TAPE]**、**[D-IN1]**、**[D-IN2]**または**[D-IN3]**キーを押しても、電源がオンになります。
- 電源がオンのときに電源[⏻]キーを押すとオフ（スタンバイ状態）になります。

音源を選ぶ

[INPUT SELECTOR]つまみをまわして再生したい音源を選ぶ。

各音源の切り替えキーを押す。

- 音源別操作は「音源別操作編」（P.27 ～ 38）をご覧ください。
- お好みの音質を設定することができます。詳しくは、「音質設定編」（P.39 ～ 52）をご覧ください。

CD（DP-K1000：別売）を操作する

本機とDP-K1000：（別売）を接続しているときは、本機のリモコンを使ってCDを操作することができます。

早送り / 早戻しをする

[◄◄]または**[►►]**キーを押し続ける。

曲を飛ばす / 前の曲へ戻る / 曲の初めに戻る

前のまたは次の曲に飛ばす　：**[I◄◄]**または**[►►I]**キーを押す。
前の曲へ戻る　：**[I◄◄]**キーを連続して2回以上押す。
曲の初めに戻る　：**[I◄◄]**キーを1回押す。

停止する

[■]キーを押す。

一時停止と再開

[CD►/II]キーを押す。

再生モードを切り換える

ランダム再生する　：**[RANDOM]**キーを押して、「RANDOM」を点灯させる。
リピート再生する　：**[REPEAT]**キーを押して、「REPEAT」を点灯させる。
プログラム再生する：**[P.MODE]**キーを押して、「PGM」を点灯させる。
フォルダ再生する　：**[P.MODE]**キーを押して、「🗀」を点灯させる。

曲を選ぶ（プログラム）

[I◄◄]または**[►►I]**キーを押して曲を選び、**[ENTER]**キーを押す。
プログラム内容の設定をクリアする：**[CLEAR]**キーを押す。

フォルダを選ぶ（フォルダ再生モード時）

MP3/WMA/AACファイルのとき
前のフォルダへは、**[FOLDER △]**キーを押す。
次のフォルダへは、**[FOLDER ▽]**キーを押す。

MP3/WMA/AACファイルのとき

- **[■]**キーで再生を停止したときは、そのとき再生していた曲が記憶されており、**[CD►/II]**キーを押すとその曲の最初から再生が始まります。（レジューム機能）
- 再生中に他の音源に切り換えたときも、レジューム機能が働きます。
- **[■]**キーを２回押すとレジューム機能は解除されます。

音源別操作編

音源別に操作方法を説明します。
音源にかかわらない音質の設定や機器の設定については、
「音質設定編」（P.39）「機器設定編」（P.53）をご覧ください。
エラーが表示されたり、困ったことが起きた場合には、
「保守編」（P.63）をご覧ください。

FM/AMラジオ

外部機器

D.AUDIO

FM/AMラジオ

FM/AM ラジオを聞いたり、放送局をセットします。

FM/AMラジオを聞く

● **[TUNER/BAND]**キーを押すだけで電源がオンになり、ラジオを聞くことができます。

[TUNER/BAND]キーを押してFMまたはAMを選ぶ

押すたびに、「FM」と「AM」が切り換わります。

2 放送局を選ぶ

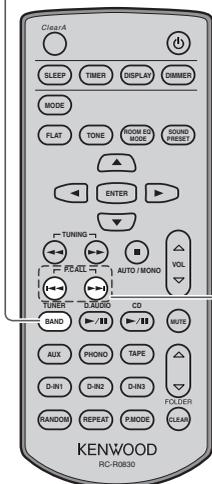
記憶されている放送局から選ぶ場合（プリセットコール）

記憶させてある放送局を選びます。

● プリセットについてはP.30 ～ 32参照。

■[P.CALL]キーを押す

[I◄◄]/**[►►I]**キー（ ）または**[▼]**/**[▲]**キー（ ）を押すたびに、記憶されている放送局が順に切り換わります。

[I◄◄]/**[►►I]**キー（ ）または**[▼]**/**[▲]**キー（ ）を押し続けると、約0.5秒間隔で記憶されている放送局が順に切り換わります。

- 放送局を自動で記憶させる（オートプリセット）→P.30
- 放送局を手動で記憶させる（マニュアルプリセット）→P.32
- 音質設定→P.39 ～

記憶されていない放送局を選ぶ場合（オート選局/マニュアル選局）

❶オート選局かマニュアル選局かを選びます。

[AUTO/MONO]キーを押す

押すたびに次のように切り換わります。

AUTO 点灯	▶	AUTO 消灯
オート選局 （電波状態の良いときに選びます。）		マニュアル選局 （電波状態の悪いときに選びます。）

❷放送局を選びます。

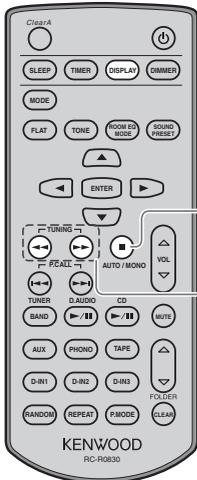
TUNING [◄◄]/[►►]キーを押す

受信すると「TUNED」が点灯します。ステレオ受信すると「ST.」が点灯します。

■オート選局の場合

キーを押すたびに次の放送局を自動で受信します。お好みの放送局を受信するまで操作を繰り返してください。

■マニュアル選局の場合

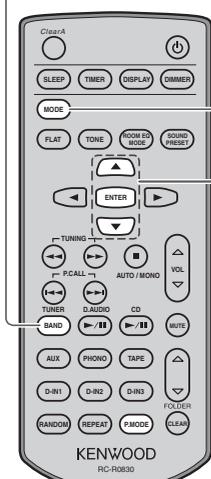
受信するまで、または受信したい周波数になるまでキーを押してください。

- オート選局/マニュアル選局中は音が出ません。
- オート選局はステレオ受信、マニュアル選局はモノラル受信になります。
- **[DISPLAY]**キーを押すたびに次のように切り換わります。

  FMのとき:
  放送局名→プリセット番号→曜日/時計

  放送局名が記憶されてないとき/AMのとき:
  プリセット番号→曜日/時計

放送局を自動で記憶させる（オートプリセット）

お住まいの都道府県と、隣接する都道府県の放送局を自動的に記憶させます。放送局名は次のページの「放送局名自動表示リスト」にある放送局のみに対応しています。プリセットされる放送局数は県によって異なります。プリセット番号 P01 から順にセットされます。

- ケーブルテレビなどのアンテナを本機に接続した場合は、放送局が正しく表示されない場合があります。
- 放送局はFM、AM合わせて最大40局まで記憶させることができます。

1 [TUNER/BAND]キーを押す

2 [MODE]キーを押す

3 「ケンメイセッテイ」を選ぶ

[▲]または**[▼]**キーを押す

▼

[ENTER]キーを押す

- ディスプレイに設定された都道府県名が表示されます。
- 都道府県名を設定していないときは、「ケンメイ　ミセッテイ」と表示されます。

4 お住まいの都道府県名を選ぶ

[▲]または**[▼]**キーを押す

▼

[ENTER]キーを押す

例）東京都を選んだ場合

- ディスプレイに「AUTO PRESET」が点滅して放送局が記憶されます。記憶後はプリセット番号P01を受信した状態になります。
- 新たにオートプリセットすると､今まで記憶していた放送局が新しいものに変更されます。

- プリセットしても電波状態が悪い場合は、受信できません。
- 放送局名自動表示リスト以外の放送局は、マニュアルプリセットで記憶させてください。（P.32参照）
- 地域によっては、周波数が同じでも放送局名が違う場合があります。希望する放送局名が表示されない場合は、リモコンの**[P.MODE]**キーを押すことにより別の放送局名に切り換えることができます。
- 受信中の放送局名が設定されていないとき、または電波状況が悪く「TUNED」が点灯していないときは、放送局名は表示されません。

●FM/AMラジオを聞く→P.28
●放送局を手動で記憶させる（マニュアルプリセット）→P.32

【放送局名自動表示リスト（五十音順）】

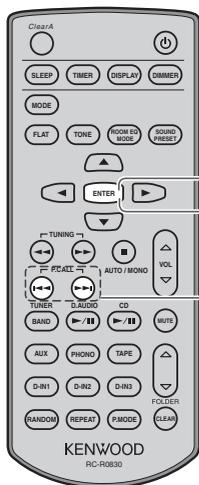
● 放送局名は変更されることがあります。

都道府県名	放送局	表示名
	NHK-FM	NHK-FM
愛知県	㈱エフエム愛知	FM AICHI
愛知県	㈱ZIP-FM	ZIP-FM
愛知県	愛知国際放送㈱	RADIO-i
青森県	㈱エフエム青森	FMｱｵﾓﾘ
秋田県	㈱エフエム秋田	FMｱｷﾀ
石川県	㈱エフエム石川	FM ISHIKAWA
岩手県	㈱エフエム岩手	FM IWATE
愛媛県	㈱エフエム愛媛	FMｴﾋﾒ
大分県	㈱エフエム大分	FM OITA
大阪府	㈱FM802	FM802
大阪府	㈱エフエム大阪	fm osaka
大阪府	関西ｲﾝﾀｰﾒﾃﾞｨｱ㈱	FM CO·CO·LO
岡山県	岡山エフエム放送㈱	FMｵｶﾔﾏ
沖縄県	AFN沖縄	AFNｵｷﾅﾜ
沖縄県	㈱エフエム沖縄	FM Okinawa
沖縄県	NHK第一	NHKﾗｼﾞｵ1
香川県	㈱エフエム香川	FMｶｶﾞﾜ
鹿児島県	㈱エフエム鹿児島	ﾐｭｰFM
神奈川県	横浜エフエム放送㈱	Fm Yokohama
岐阜県	岐阜エフエム㈱	Radio 80
京都府	㈱エフエム京都	FMｷｮｳﾄ
熊本県	㈱エフエム熊本	FMK
群馬県	㈱エフエム群馬	FM GUNMA
高知県	㈱エフエム高知	FM KOCHI
埼玉県	㈱FM NACK5	NACK5
佐賀県	㈱エフエム佐賀	FMｻｶﾞ
滋賀県	㈱エフエム滋賀	e-radio
静岡県	静岡エフエム放送㈱	K-MIX

都道府県名	放送局	表示名
島根県	㈱エフエム山陰	Fm-sanin
千葉県	㈱ベイエフエム	Bayfm
東京都	ｴﾌｴﾑｲﾝﾀｰｳｪｰﾌﾞ㈱	InterFM
東京都	㈱J-WAVE	J-WAVE
東京都	㈱エフエム東京	TOKYO FM
東京都	放送大学	ﾎｳｿｳﾀﾞｲｶﾞｸ
徳島県	㈱エフエム徳島	FMﾄｸｼﾏ
栃木県	㈱エフエム栃木	RADIO BERRY
富山県	富山エフエム放送㈱	FMﾄﾔﾏ
富山県	北日本放送㈱	KNBﾗｼﾞｵ
長崎県	㈱エフエム長崎	fmnagasaki
長野県	長野エフエム放送㈱	FM NAGANO
新潟県	㈱エフエムラジオ新潟	FM-NIIGATA
新潟県	新潟県民エフエム放送㈱	FM PORT
兵庫県	㈱Kiss-FM KOBE	Kiss-FM
広島県	広島エフエム放送㈱	ﾋﾛｼﾏFM
福井県	福井エフエム放送㈱	FMFUKUI
福岡県	㈱エフエム九州	CROSS FM
福岡県	㈱エフエム福岡	fm fukuoka
福岡県	㈱九州国際エフエム	Love FM
福島県	㈱エフエム福島	ﾌｸｼﾏFM
北海道	㈱エフエム・ノースウェーブ	NORTH WAVE
北海道	㈱エフエム北海道	AIR-G'
三重県	三重エフエム放送㈱	Radio3 FMﾐｴ
宮城県	㈱エフエム仙台	Date fm
宮崎県	㈱エフエム宮崎	JOY FM
山形県	㈱エフエム山形	BOY FM
山口県	㈱エフエム山口	FMﾔﾏｸﾞﾁ
山梨県	㈱エフエム富士	FM-FUJI

放送局を手動で記憶させる（マニュアルプリセット）

放送局を選択して好きなプリセット番号に登録します。すでに放送局が記憶されているプリセット番号に登録すると、新しい放送局に変更されます。

● 放送局はFM、AM合わせて最大40局まで記憶できます。

1 記憶させたい放送局を選び、[ENTER]キーを押す

プリセットに登録したい放送局を、オート選局またはマニュアル選局で選びます。（P.29参照）

2 [P.CALL]キーを押して、記憶させたいプリセット番号（P01 ～ P40）を選ぶ

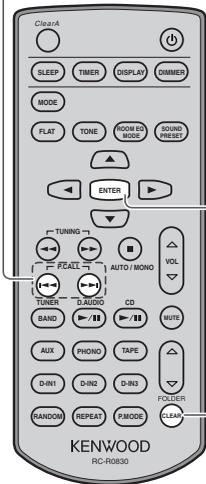
● すでに放送局が記憶されているプリセット番号を選ぶと、新しい設定に変更されます。

3 [ENTER]キーを押す

● 他の放送局を記憶させるときは、手順1 ～ 3を繰り返してください。

●FM/AMラジオを聞く→P.28

記憶させた放送局を消す

プリセットに登録した放送局をプリセットから消します。

[P.CALL]キーを押して、消したい放送局のプリセット番号を選ぶ

例）P7を選んだ場合

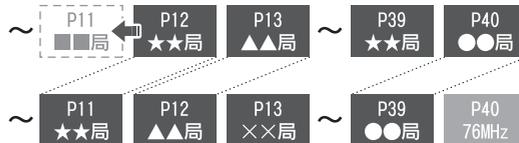
2 [CLEAR]キーを押す

- ディスプレイに「CLEAR?」と20秒間表示されます。
- プリセット番号P40を選んだ場合は「CAN'T CLEAR」と表示され、消去できません。

3 [ENTER]キーを押して放送局を消す

ディスプレイに「CLEAR？」と表示されている間に、**[ENTER]**キーを押します。

■放送局を消すとプリセット番号は？

例）P11の「■■局」を消すと

後ろのプリセット番号が前に繰り上がります。

繰り上がって空いたプリセット番号には自動的にFM76MHzが記憶されます。

外部機器

本機に外部機器を接続して曲を再生することができます。

外部機器を再生する

「他の機器（市販品）との接続」（P.15 ～ 17）にしたがって、本機と外部機器を接続します。

● 接続するときは、本機と外部機器の電源を必ずオフにして接続してください。

● 接続する外部機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

1 再生したい音源を選ぶ

[INPUT SELECTOR]つまみをまわして再生したい音源を選ぶ

表示が次のように切り換わります。

D-IN1 48 kHz

● デジタル機器を選んだときは、入力信号のサンプリング周波数が表示されます。
本機で再生できるデジタル信号は、PCM（32kHz ～ 96 kHz）です。

2 接続した外部機器を再生する

接続した外部機器を操作して再生します。

3 音量を調整する

● [DISPLAY]キーを押すたびに次のように切り換わります。

「D.AUDIO」、「PHONO」、「TAPE」、「AUX」が選ばれているとき:
選択されている音源↔曜日/時計

「CD」、「D-IN1」、「D-IN2 」、「D-IN3」が選ばれているとき:
選択されている音源/サンプリング周波数↔曜日/時計

関連情報
● 「他の機器（市販品）との接続」→P.15 ～ 17
● 音質設定→P.39 ～

外部機器の入力レベルを調整する

[PHONO 入力]、[TAPE 入力]、[AUX 入力] 端子に接続した外部機器の入力レベルを調整することができます。
同じボリュームでも外部機器からの音量がほかの音源より大きく、または小さく感じた場合は調整してください。

1 入力レベルを調整したい音源を選ぶ

[INPUT SELECTOR]つまみをまわして入力レベルを調整したい音源を選ぶ

● PHONO、TAPE、AUXそれぞれの入力ごとに、入力レベルを調整できます。

2 [MODE]キーを押す

3 「INPUT LEVEL」を選ぶ

[▲]または[▼]キーを押す

INPUT LEVEL

▼

[ENTER]キーを押す

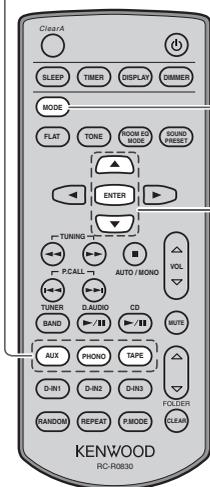
4 入力レベルを設定する

[▲]または[▼]キーを押す

LEVEL +1

● −3～+5の範囲で調整できます。

▼

[ENTER]キーを押す

● PHONOまたはAUXの入力レベルを調整すると、**[TAPE出力]**端子からの出力レベルも変化します。

D.AUDIO

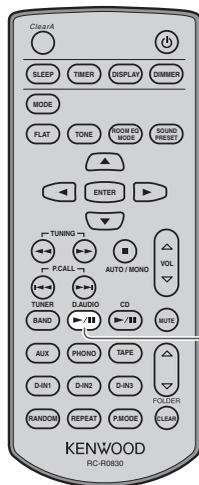
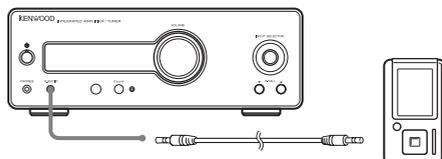
ケンウッド製デジタルオーディオプレーヤー（以下「デジタルオーディオプレーヤー」といいます）を接続して再生することができます。

デジタルオーディオプレーヤーを再生する

デジタルオーディオプレーヤーを本機に接続して再生します。

- 接続するときは、本機とデジタルオーディオプレーヤーの電源は必ずオフにして接続してください。
- 接続するデジタルオーディオプレーヤーの取扱説明書もあわせてご覧ください。
- 別売の専用ケーブルPNC-150を使って接続すると、本機やリモコンでデジタルオーディオプレーヤーを操作できます。

接続可能なケンウッド製デジタルオーディオプレーヤー

HDDオーディオプレーヤー	メモリオーディオプレーヤー
HD20GA7、HD30GA9、HD30GB9、HD10GB7	M1GB5、M512B5、M1GC7、M2GC7、M512C5

本体前面部の[D.AUDIO]端子にデジタルオーディオプレーヤーを接続する

デジタルオーディオプレーヤーの電源を入れる

[D.AUDIO►/II]キーを押して再生する

- **[D.AUDIO►/II]**キーを押すだけで電源がオンになり、再生が始まります。
- 専用ケーブル PNC-150以外で接続した場合は、接続したデジタルオーディオプレーヤー側で操作します。

- 専用ケーブルPNC-150で接続した場合は、デジタルオーディオプレーヤーの音量、音質設定が無効になります。
- ご使用後、デジタルオーディオプレーヤーの接続ケーブルは**[D.AUDIO]**端子から抜いてください。

関連情報
● デジタルオーディオプレーヤーの入力レベルを調整する→P.38
● 音質設定→P.39 ～

■デジタルオーディオプレーヤー再生中の操作

前のフォルダ/ 次のフォルダの曲を再生する

前のフォルダへは**[FOLDER △]**キーを押す。

次のフォルダへは**[FOLDER ▽]**キーを押す。

● デジタルオーディオプレーヤーの機種によっては、動作しないこともあります。

早送り / 早戻しをする

[I◄◄]または**[►►I]**キーを押し続ける。

一時停止と再開

[D.AUDIO►/II]キーを押す。

停止する

[■]キーを押す。

曲を飛ばす / 前の曲へ戻る / 曲の初めに戻る

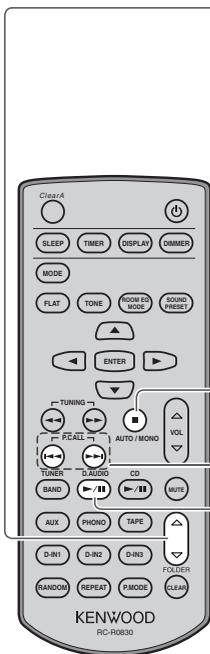
曲を飛ばす

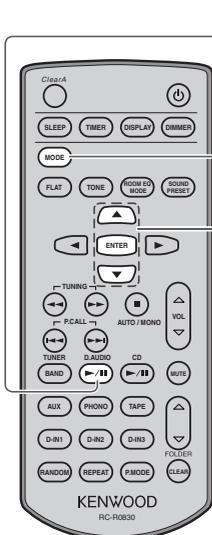
[►►I]キーを押す。

前の曲へ戻る

[I◄◄]キーを連続して2回以上押す。

曲の初めに戻る

[I◄◄]キーを１回押す。

デジタルオーディオプレーヤーの入力レベルを調整する

[D.AUDIO] 端子に接続した外部機器の入力レベルを調整することができます。
同じボリュームでも外部機器からの音量がほかの音源より大きく、または小さく感じた場合には調整してください。

1 [D.AUDIO►/II]キーを押す

2 [MODE]キーを押す

3 「INPUT LEVEL」を選ぶ

[▲]または[▼]キーを押す

INPUT LEVEL

▼

[ENTER]キーを押す

4 入力レベルを設定する

[▲]または[▼]キーを押す

LEVEL　　　+1

● −3〜+5の範囲で調整できます。

▼

[ENTER]キーを押す

● D.AUDIOの入力レベルを調整すると、**[TAPE出力]**端子からの出力レベルも変化します。

音質設定編

ステレオシステムならではの音質設定をお楽しみください。
部屋の音響特性を測定し、最適な音響効果を作り出すルームイコライザー機能を設定できます。また、本機に搭載されたデジタルサウンドイコライザー機能を使うと､お好みの音をお楽しみいただけます。

ROOM EQ（ルームイコライザー）

スピーカーから出力されるテスト信号を付属のマイクで測定し、部屋の広さやステレオの設置場所に合った最適な音響効果を自動で設定します。TONE と効果を重ね合わせることができます。

部屋の音響効果を自動設定する（ROOM EQ）

付属のマイクで音響特性を測定し、次の音響効果を自動で設定します。

- スピーカーからの音の遅延
- 左右スピーカーからの音量レベルの差
- スピーカーの周波数特性および室内音響特性

測定中はスピーカーから大きなテスト信号が出力されます。特に夜間は近隣やお子さまに十分配慮してください。

測定のイメージ

ルームイコライザー機能の効果イメージ

付属のルームイコライザー用マイクを本体背面の[ROOM EQマイク入力]端子に接続する

詳しくは、「基本接続」（P.12）をご覧ください。

マイクをリスニングポジション（耳の高さ）に置く

スピーカーとマイクの間には障害物を置かないでください。

[MODE]キーを押す

「ROOM EQ」を選ぶ

[▲]または[▼]キーを押す

ROOM EQ

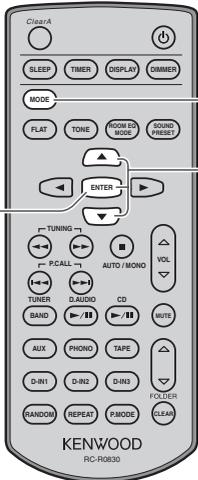
▼

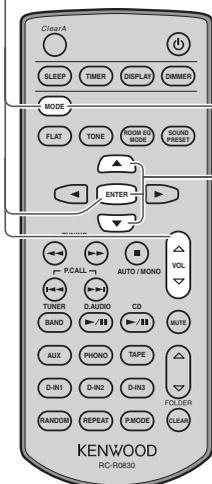
[ENTER]キーを押す

R. EQ START

[ENTER]キーを押す

R. EQ SETUP

- 設定中はディスプレイに「R. EQ SETUP」が表示され「ROOM EQ」が点滅します。
  設定が完了すると、「ROOM EQ」が点灯します。

自動設定をキャンセルする

自動設定中に**[MODE]**キーを押すと、「R.EQ CANCEL?」が表示されます。
[ENTER]キーを押すと､「R.EQ CANCEL」が表示され､設定がキャンセルされます。
[VOL]キーを押してもキャンセルされます。

■自動設定された特性を一時的に解除する

❶[MODE]キーを押す
❷[▲]または[▼]キーを押して「ROOM EQ」を選ぶ
❸[ENTER]キーを押す
❹[▲]または[▼]キーを押して「R.EQ OFF」を選ぶ
❺[ENTER]キーを押す

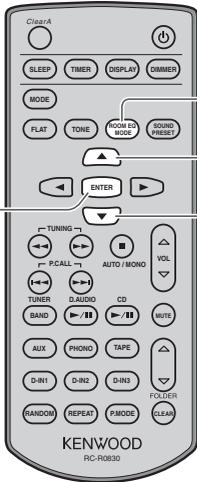
■解除された特性を呼び出す

❶[MODE]キーを押す
❷[▲]または[▼]キーを押して「ROOM EQ」を選ぶ
❸[ENTER]キーを押す
❹[▲]または[▼]キーを押して「R.EQ CALL」を選ぶ
❺[ENTER]キーを押す

- 自動設定が完了するまでに約1分間かかります。
- ルームイコライザー用マイクが接続されていないとき、またはヘッドホンが接続されていると「CAN'T SETUP」と表示され､測定できません。
- 測定後､必ずマイクを本体からはずしてください。
- 使用環境により効果がはっきりと表れない場合があります。
- 自動設定中は他の操作は行わないでください。

● サウンドプリセット→P.47

音響効果を状況に合わせて設定する

あらかじめ「部屋の音響効果を自動設定する（ROOM EQ）」(P.40) の操作を行ってください。設定した音響効果とお聞きになる状況によって音響モードを選ぶことができます。

1 [ROOM EQ MODE]キーを押す

2 [▲]または[▼]キーを押して音響モードを選ぶ

次のように切り換わります。

R.EQ NORMAL　ROOM EQで測定した結果を忠実に再現するモードです。

▼▲

R.EQ WIDE　測定ポジションを中心に、比較的広い範囲で違和感なく音楽を楽しめるモードです。

▼▲

R.EQ NIGHT　深夜など小音量で楽しむ際に、メロディー帯域を聞きやすくするモードです。

▼▲

R.EQ LIVE　コンサートホールのように、反響音の多い環境で楽しむモードです。

▼▲

R.EQ VOCAL　ボーカルやセリフを聞き取りやすくするモードです。

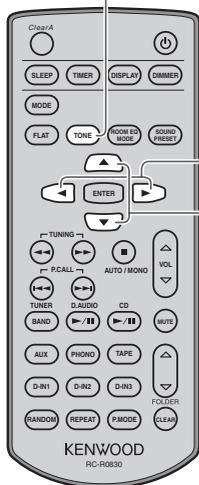
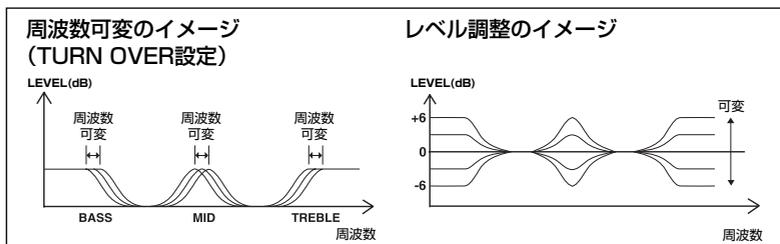
3 [ENTER]キーを押す

● 自動設定前または､「R.EQ OFF」が選択されているときは「ROOM EQ」が消灯し、「ROOM EQ MODE」は働きません。

デジタルサウンドイコライザー

本機は DSP（デジタルシグナルプロセッサー）でデジタル処理を行うデジタルサウンドイコライザー機能を搭載しています。
詳細な設定ができるため、より自分の好みに音を調整することができます。

音域レベルを調整する（TONE）

低音、中音、高音を調整します。各音域ごとに 3 種類の周波数（TURN OVER）から 1 つを選びレベルを設定することで、お好みに合わせた音に調整できます。ROOM EQ の効果を重ね合わせることができます。

1 [TONE]キーを押す

● 設定中は「TONE」が点滅します。

2 [◀]または[▶]キーを押して調整したい低音（BASS）の周波数（60Hz、100Hz、150Hz）を選ぶ

BASS 150Hz
TONE

3 [▲]または[▼]キーを押して低音（BASS）のレベルを調整する

BASS +3
TONE

● 「TONE」が点滅している間に、レベルを－6から+6の範囲で調整できます。

●サウンドプリセット→P.47

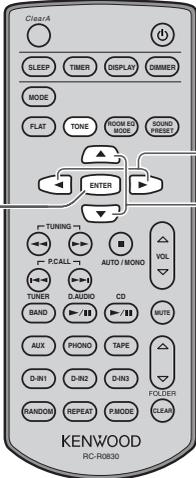
4 [ENTER]キーを押す

5 [◀]または[▶]キーを押して調整したい中音（MID）の周波数（1kHz、2kHz、3kHz）を選ぶ

MID 1kHz
TONE

6 [▲]または[▼]キーを押して中音（MID）のレベルを調整する

MID +1
TONE

●「TONE」が点滅している間に、レベルを－6から+6の範囲で調整できます。

7 [ENTER]キーを押す

8 [◀]または[▶]キーを押して高音（TREBLE）の周波数（5kHz、7kHz、10kHz）を選ぶ

9 [▲]または[▼]キーを押して高音（TREBLE）のレベルを調整する

● 「TONE」が点滅している間に、レベルを−6から+6の範囲で調整できます。

10 [ENTER]キーを押す

● レベル0以外に設定されると「TONE」が点灯します。

● すべての音域のレベルを調整する必要のないときは、調整したい音域のレベル調整が終わったあと、**[TONE]**キーを押すと設定が完了します。

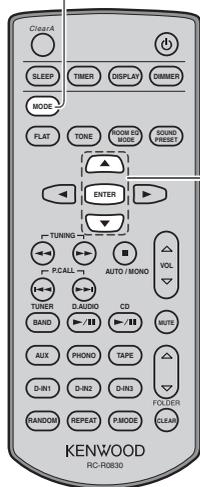
サウンドプリセット

設定したサウンド効果を、サウンドプリセットとして 3 つまで登録できます。
登録したサウンドプリセットは [SOUND PRESET] キーを押すだけで呼び出して使うことができます。

サウンド効果を登録する

ROOM EQ、ROOM EQ MODE、TONE で設定したサウンド効果を 3 つまで登録できます。

- ROOM EQ（P.40）、ROOM EQ MODE（P.43）、TONE（P.44）でサウンド効果を設定しておきます。

1 [MODE]キーを押す

2 「SOUND PRESET」を選ぶ

[▲]または[▼]キーを押す

SOUND PRESET

▼

[ENTER]キーを押す

3 サウンドプリセット番号を選ぶ（1 ～ 3）

[▲]または[▼]キーを押す

PRESET 1 2 3

- 選択されているプリセット番号が点滅します。

▼

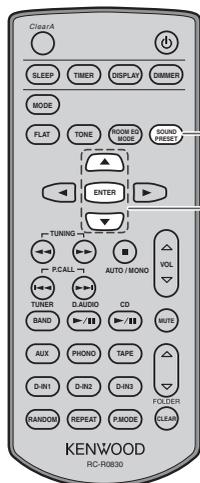
[ENTER]キーを押す

- 登録されたサウンドプリセット番号が点灯し、現在設定されているサウンド効果が登録されます。

♪

サウンドプリセットを使う

登録したサウンドプリセットを呼び出して使います。

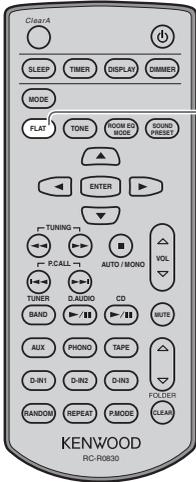
● あらかじめ、使いたいサウンド効果をサウンドプリセットに登録しておきます。（P.47参照）

1 [SOUND PRESET]キーを押す

2 サウンドプリセット番号を選ぶ（1 ～ 3）

[▲]または[▼]キーを押す

S. PRESET　1

[ENTER]キーを押す

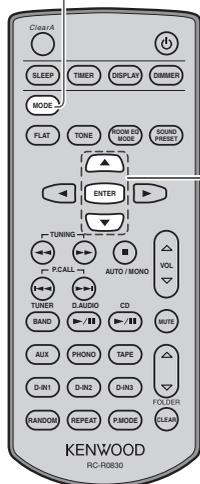
イコライザー効果をオフにする（FLAT）

1 [FLAT]キーを押す

FLAT

- 「TONE」のレベルが0になり、「ROOM EQ MODE」は「NORMAL」に設定され、TURN OVERも初期設定に戻ります。
- もう一度押すと元の設定に戻ります。

Supreme EX

CD やオーディオファイル、またはデジタル入力端子に接続された機器をケンウッド独自の音質向上技術で再生します。

Supreme EXを設定する

1 [MODE]キーを押す

2 「SUPREME SET」を選ぶ

[▲]または[▼]キーを押す

SUPREME SET

● 「SPRM EX」が点滅します。

▼

[ENTER]キーを押す

3 「ON」または「OFF」を選ぶ

[▲]または[▼]キーを押す

SUPREME ON

SPRM EX

SUPREME OFF

● 「SUPREME ON」に設定すると、「SPRM EX」が点灯し、「SUPREME OFF」に設定すると消灯します。

▼

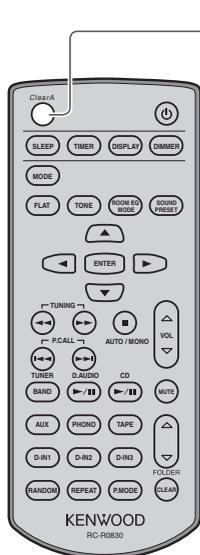
[ENTER]キーを押す

● 「CD」、「D-IN1」、「D-IN2」または「D-IN3」が選ばれているときにSupreme EX機能が働きます。

● 「CD」、「D-IN1」、「D-IN2」または「D-IN3」が選ばれているときでも、入力信号が96kHz、88.2kHzの場合は、「SPRM EX」は消灯します。

Clear A

Clear A モードで小音量時でも滑らかな高音質の再生が楽しめます。
夜間など小音量でお聞きになるときに便利な機能です。

Clear Aを設定する

1 **[Clear A]キーを押す**

[Clear A]キーを押す

CLEAR A ON

●ボリュームの調整範囲が－∞ dBから0 dBになります。

■Clear A機能をキャンセルするには

[Clear A]キーを押します。

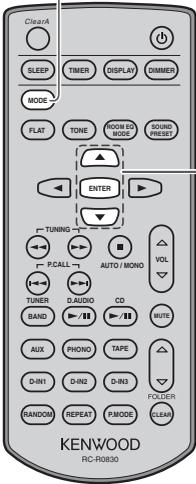
CLEAR A OFF

●ボリュームの調整範囲が－∞ dBから+8 dBに戻ります。

● ヘッドホン接続中は、Clear A機能は動作しません。
●「CLEAR A ON」のときは、通常より半分の間隔で音量調整ができます。

BALANCE

左右のスピーカーの音量バランスを調整します。

スピーカーの音量バランスを調整する

1 [MODE]キーを押す

2 「BALANCE」を選ぶ

[▲]または[▼]キーを押す

▼

[ENTER]キーを押す

3 バランスを調整する

[▲]または[▼]キーを押す

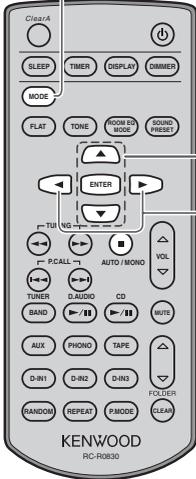
▼

[ENTER]キーを押す

機器設定編

基本的な時刻設定のほか、タイマーやディスプレイ設定など、本機をより便利に使いこなしていただくための機能を説明しています。

時刻設定

本機の時計を正しい時刻に合わせます。プログラムタイマーで再生をする場合、時刻が正しく設定されていないと、正しい時間にプログラムを作動させることができません。

1 [MODE]キーを押す

2 「TIME ADJUST」を選ぶ

[▲]または[▼]キーを押す

TIME ADJUST

▶ **[ENTER]**キーを押す

3 曜日を合わせる

[▲]または[▼]キーを押す

SAT 12:00am

▶ **[ENTER]**キーを押す

4 時刻を合わせる

[▲]または[▼]キーを押して
「時」を合わせる

「時」が点滅します。

SAT 5:00am

▶ **[ENTER]**キーを押す

[▲]または[▼]キーを押して
「分」を合わせる

「分」が点滅します。

SAT 5:30am

▶ **[ENTER]**キーを押す

● 設定した曜日と時刻が表示されます。

● 設定を間違えたときは、**[◀]**または**[▶]**キーを押してカーソルを移動させ再度設定してください。

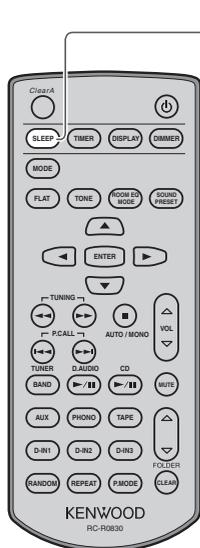
● 停電や電源プラグをコンセントに入れ直した場合は、もう一度時刻合わせをしてください。

● 電源がスタンバイ状態のとき、**[■]**キーを押すと5秒間時刻を表示します。

タイマー設定

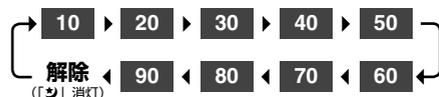
設定した時間が過ぎると自動的に電源がオフになるおやすみタイマーと、
設定した時間になると、再生を始めるプログラムタイマーがあります。

おやすみタイマーを設定する（SLEEP）

設定した時間になると自動的に電源がオフになります。電源オフまでの時間を 10 分から 90 分まで 10 分単位で設定できます。

1 [SLEEP]キーを押す

押すごとに10分単位で時間が長くなります。
90分の次はタイマーオフになります。

おやすみタイマー設定中

セットする時間

おやすみタイマー表示

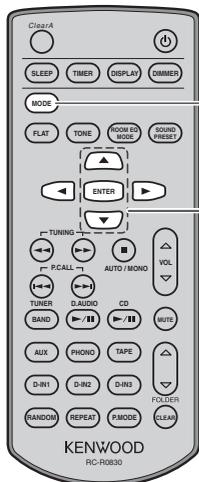
● おやすみタイマー動作中に**[SLEEP]**キーを押すと残り時間を確認できます。

■おやすみタイマーをキャンセルするには

電源キーを押してオフ（スタンバイ）にするか、**[SLEEP]**キーを押して「」を消灯します。

プログラムタイマーを設定する（PROGRAM）

タイマーを利用して、設定した時間に自動的に再生を開始します。2 つのタイマー（PROG. 1、PROG. 2）を同時に設定しておくことができます。CD、ラジオ、外部機器を再生できます。

- あらかじめ本機の時計を合わせておいてください。（P.54参照）
- PROGRAM1とPROGRAM2の作動する時間が重ならないように、1分以上の間を開けて設定してください。

1 [MODE]キーを押す

2 「TIMER SET」を選ぶ

[▲]または[▼]キーを押す

TIMER SET

[ENTER]キーを押す

3 「PROG. 1」または「PROG. 2」を選ぶ

[▲]または[▼]キーを押す

PROG. 1 SET

[ENTER]キーを押す

4 「ON」または「OFF」を選ぶ

[▲]または[▼]キーを押す

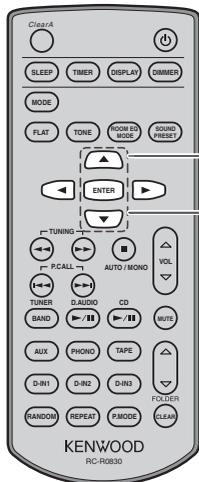
PROG. 1 ON

PROG. 1 OFF

- 「OFF」を選ぶと操作が終了し、もとの表示に戻ります。

[ENTER]キーを押す

関連情報

●時刻設定→P.54

5 タイマー実行曜日を選ぶ

[▲]または[▼]キーを押す

押すたびに次のように切り換わります。

EVERYDAY ⇔ SUNDAY ⇔ MONDAY ⇔ TUESDAY ⇔ WEDNESDAY ⇔ THURSDAY ⇔ FRIDAY ⇔ SATURDAY ⇔ MON-FRI ⇔ TUE-SAT ⇔ SAT-SUN ⇔ EVERYDAY

[ENTER]キーを押す

●「EVERYDAY」、「MON-FRI」、「TUE-SAT」または「SAT-SUN」を選んだ場合は、手順7に進みます。

6 「EVERY WEEK」または「ONETIME」を選ぶ

[▲]または[▼]キーを押す

EVERY WEEK

● 毎週タイマーが実行されます。

ONETIME

● 設定したタイマーが一度だけ実行されます。

[ENTER]キーを押す

7 「ON」（開始時間）を設定する

[▲]または[▼]キーを押して「時」を合わせる

ON 7:00am

● 「時」が点滅します。

▶ [ENTER]キーを押す

[▲]または[▼]キーを押して「分」を合わせる

ON 7:15am

● 「分」が点滅します。

▶ [ENTER]キーを押す

8 「OFF」（終了時間）を設定する

[▲]または[▼]キーを押して「時」を合わせる

OFF 8:00am

● 「時」が点滅します。

▶ [ENTER]キーを押す

[▲]または[▼]キーを押して「分」を合わせる

OFF 8:15am

● 「分」が点滅します。

▶ [ENTER]キーを押す

次ページに続く

9 「PLAY」または「AI PLAY」を選ぶ

[▲]または**[▼]**キーを押す

● 手順11で設定する音量で再生されます。

AI PLAY

● 設定した時刻に再生が始まり、手順11で設定する音量まで徐々に大きくなります。

▼

[ENTER]キーを押す

10 「CLEAR A ON」または「CLEAR A OFF」を選ぶ

[▲]または**[▼]**キーを押す

● ボリュームの調整範囲が－∞ dBから0 dBになります。

CLEAR A OFF

● ボリュームの調整範囲が－∞ dBから+8 dBになります。

▼

[ENTER]キーを押す

11 音量を設定する

[▲]または**[▼]**キーを押す

▼

[ENTER]キーを押す

● **[VOL]**キーでは設定できません。

● 手順4から11までは**[ENTER]**キーのかわりに、**[▶]**キーを押しても設定できます。また**[◀]**キーを押すと、前の設定に戻り、設定をやり直すこともできます。

音源を選ぶ

[▲]または**[▼]**キーで選ぶ

押すたびに次のように切り換わります。

[ENTER]キーを押す

- 「TUNER」以外の音源を選んだときは設定が完了し「COMPLETE」が表示された後、元の表示に戻ります。
- 「TUNER」を選んだときは**[▲]**または**[▼]**キーでプリセット番号を選び、**[ENTER]**キーを押します。設定が完了し「COMPLETE」が表示された後、元の表示に戻ります。

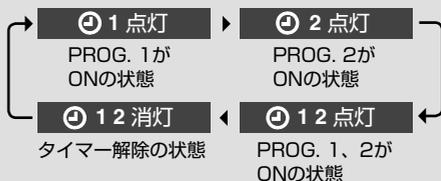
13 電源[⏻]キーを押して電源をオフにする

本体のスタンバイインジケーターがオレンジ色に点灯します。

- 赤色に点灯した場合は、時計を合わせてください。

■タイマーを解除（オフ）/再設定（オン）するには

- 電源がオンのときに、**[TIMER]**キーを押す。

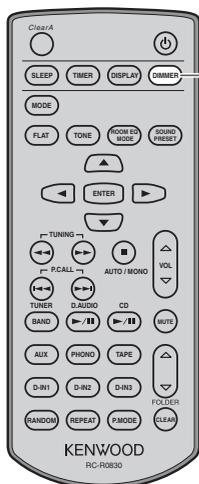
[TIMER]キーを押すごとに切り換わります。

- 停電や電源プラグをコンセントに入れ直した場合は、スタンバイインジケーターが赤色に点灯します。もう一度時刻を合わせてください。（P.54参照）

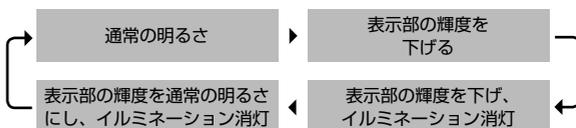
- 予約内容を変更したいときは、タイマー予約を最初からやり直してください。
- 電源がスタンバイ状態のとき、**[■]**キーを押すと5秒間タイマーのオン/オフ設定が確認できます。

ディスプレイ設定

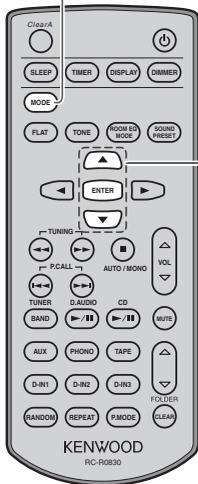
ディスプレイの明るさを調節したり、本体のイルミネーションの点灯のしかたを設定します。

ディスプレイの明るさを設定する（DIMMER）

ディスプレイ（表示部）の明るさを調節できます。お好みやお部屋の状態によって調節してください。

1 [DIMMER]キーを押す

押すたびに次のように切り換わります。

● 本機をDP-K1000（別売）とシステムコントロール接続している場合は、DIMMERを設定するとDP-K1000でも連動します。

ディスプレイセーバーのオン/オフを切り換える

本機を一定時間操作しない状態が続くとディスプレイがスクロール表示され、ディスプレイの文字の焼きつきや、輝度ムラを防ぎます。

1 [MODE]キーを押す

2 「DISP. SAVER」を選ぶ

[▲]または[▼]キーを押す

DISP. SAVER

▼

[ENTER]キーを押す

3 「ON」または「OFF」を選ぶ

[▲]または[▼]キーを押す

D.SAVER ON

● ディスプレイセーバーが働きます。

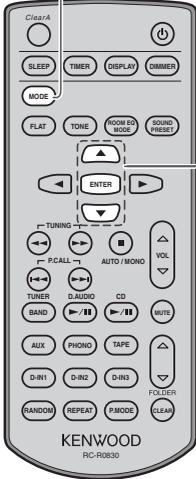
D.SAVER OFF

● ディスプレイセーバーがオフになります。

[ENTER]キーを押す

- CDのときは（DP-K1000（別売）接続時）、再生停止後10分間操作しない状態が続くとディスプレイセーバーが働きます。その他の音源を選んでいるときは、キー操作後10分間操作しない状態が続くとディスプレイセーバーが働きます。
- DP-K1000とシステムコントロール接続している場合はDP-K1000もディスプレイセーバーが働きます。

オートパワーセーブ

オートパワーセーブ（A.P.S.： Auto Power Save）とは、CD が停止したまま 30 分以上何も操作しないと、自動的に電源がオフになる機能です。（DP-K1000（別売）接続時）

1 [MODE]キーを押す

2 「A.P.S. SET」を選ぶ

[▲]または[▼]キーを押す

A.P.S. SET
A.P.S.

●「A.P.S.」が点滅します。

▼

[ENTER]キーを押す

3 「ON」または「OFF」を選ぶ

[▲]または[▼]キーを押す

A.P.S. ON
A.P.S.

●「A.P.S.」が点灯します。

A.P.S. OFF

●「A.P.S.」が消灯します。

▼

[ENTER]キーを押す

● 音量が−∞ dBの場合、またはMUTEがオンのときに働きます。

● 外部機器に録音するときには、A.P.S.をオフにするか、音量を−88 dB以上にして録音してください。

保守編

エラーメッセージが表示されたときやトラブルが起きたときの対処方法、さらに長くご愛用いただくための保管やお手入れ方法について説明しています。

メッセージ表示一覧

ディスプレイ表示	意　味
CAN'T SETUP	●ROOM EQ用マイクが接続されていない。 →ROOM EQ用マイクを接続する。（P.12参照） ●ヘッドフォンが**[PHONES]**端子に接続されている。 →ヘッドフォンをはずす。
Non-PCM	**[CD入力（同軸）]**、**[デジタル入力1（光）]**、**[デジタル入力2（光）]** または **[デジタル入力3（同軸）]**端子にPCM以外の信号が入力されている。（P.14、16、17参照）
R.EQ ERROR1	測定しようとしている部屋のノイズが大きいため測定できない。 →周辺のノイズを小さくする。
R.EQ ERROR2	マイクに信号の入力がないため測定できない。
UNLOCK	**[CD入力（同軸）]**、**[デジタル入力1（光）]**、**[デジタル入力2（光）]** または **[デジタル入力3（同軸）]**端子に接続されている機器の電源が入っていない。または信号が入力されていない。（P.14、16、17参照）
---kHz	再生範囲外のサンプリング周波数のPCM信号が入力されている。

故障かな？と思ったら

調子が悪いと故障と考えがちですが、サービスに依頼する前に、症状にあわせて一度チェックしてみてください。

アンプ部・スピーカー部

症　状	考えられる原因・処置	参照ページ
音が出ない。	●「接続のしかた」を参照し、正しく接続し直す。 ●音量を上げる。 ●ミュートを解除する。 ●ヘッドホンが差し込まれているときはプラグを抜く。	12～17 24 24 17
スタンバイインジケーターの表示が赤く点滅し、音が出ない。	●スピーカーコードがショートしている。電源コードを抜いてスピーカーコードを接続し直す。 ●内部的な不具合が発生したと考えられる。本体の電源をオフにし、電源プラグを抜いて修理を依頼する。	13 70
ヘッドホンから音が出ない。	●ヘッドホンプラグが正しく差し込まれているか確認する。 ●音量を上げる。 ●ミュートをオフにする。	17 24 24
「CD」、「D-IN1」、「D-IN2」または「D-IN3」から音が出ない。	●「接続のしかた」を参照し、正しく接続し直す。 ●接続機器のデジタル音声出力設定が「PCM」に設定させているか確認する。	14、16、17
スピーカーの片側から音が出ない。	●「接続のしかた」を参照し、正しく接続し直す。 ●左右のバランスを調整する。	12 52
入力をPHONOにするとブーンという音が出る。	●オーディオコードを**[PHONO入力]**端子にしっかりと差し込む。 ●信号用アース線を[⏚]端子に接続する。	15 15
時刻表示が点滅している。	●「時刻設定」を参照し、時刻を合わせる。	54
タイマーが作動しない。	●「時刻設定」を参照し、時刻を合わせる。 ●プログラムタイマーの開始時刻と終了時刻を設定する。	54 56～59
表示部の文字がスクロールする。	●ディスプレイセーバーをオフにする。	61

チューナー部

症　状	考えられる原因・処置	参照ページ
放送局が受信できない。	●FM、AMアンテナを接続する。 ●放送バンドを合わせる。 ●受信したい放送局の周波数に合わせる。	12、13 28 28
雑音が入る。	●外部アンテナを道路から離して設置する。 ●電気器具の電源を切ってみる。 ●テレビから離す。	—
オートプリセット後、[P.CALL]キーを押しても受信できない。	●もう一度オートプリセットする。 ●受信できる周波数の放送局をマニュアルプリセットする。	30 32

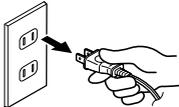
D.AUDIO 端子に接続した機器

症　状	考えられる原因・処置	参照ページ
ケンウッド製デジタルオーディオプレーヤーがリモコンで操作できない。	●別売の専用ケーブル PNC-150で接続する。 ●対応モデルかどうかを確認する。	15 36

リモコン部

症　状	考えられる原因・処置	参照ページ
リモコンで操作できない。	●新しい電池に入れ換える。 ●操作範囲内で操作する。	21 21
本機のリモコンでDP-K1000（別売）が操作できない。	●システムコントロールコードを正しく接続する。	14

マイコンをリセットするには

症　状	考えられる原因・処置
マイコンが誤動作（操作できない、表示部の誤表示など）する。	●電源がオンのときの接続コードの抜き差しや、外部からの要因により、誤動作することがあります。 次の手順に従い、マイコンをリセットしてください。 ❶電源プラグをコンセントから抜きます。 ❷再度本体の電源キーを押しながら、電源プラグを差し込み直します。 ❸マイコンをリセットすると右記のディスプレイが表示されます。 INITIALIZE ●リセットにより、各種の記憶内容は消滅し、お買い上げ時の状態となります。ご了承ください。

保管とお手入れ

本機の保管とお手入れ

■次のような場所に置かない

- 直射日光の当たる場所。
- 湿気やほこりの多い場所。
- 暖房器具の熱が直接当たる場所。

■結露にご注意

本機と外気の温度差が大きいと、本機に水滴（露）が付くことがあります。この現象がおきますと、本機が正常に動作しないことがあります。このようなときには、数時間放置し、乾燥させてからご使用ください。
気温差の大きいところへ持ち込んだときや、湿気の多い部屋などでは、特に結露にご注意ください。

■汚れたら

前面パネル、ケースなどが汚れたときは、柔らかい布でからぶきします。シンナー、ベンジン、アルコール、接点復活剤などは変色、変形の原因になることがありますので、ご使用にならないでください。

保証とアフターサービス よくお読みください

保証書

製品には保証書が添付されております。保証書は、必ず「お買い上げ日・販売店名」等の記入をお確かめの上、販売店から受け取っていただき、内容をよくお読みの後、大切に保管してください。

保証期間

保証期間は、お買い上げの日より1年間です。
電池や、一部の消耗部品の交換、ならびに落下、水没など、不適切なご使用による故障の場合は、保証期間内でも有料となります。詳しくは保証書をご覧ください。

補修用性能部品の最低保有期間

当社は、このステレオの補修用性能部品を、製造打ち切り後8年保有しております。
補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

修理に関するご相談・ご不明な点は

修理に関するご相談ならびにご不明な点は、お買い上げの販売店または最寄りのケンウッドサービス窓口にお問い合わせください。（お問い合わせ先は、「ケンウッド全国サービス網」P.70参照）

修理を依頼されるときは

「故障かな？と思ったら」に従って調べていただき、なお異常がある時は、製品の使用を中止し、必ず電源プラグを抜いてから、お買い上げの販売店または最寄りのケンウッドサービス窓口にお問い合わせください。

この製品の故障・誤動作・不具合などによって発生した次に掲げる損害などの付随的損害の補償につきましては、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

- お客様または第三者がテープ・ディスクなどへ記録された内容の損害
- 録音・再生などお客様または第三者が製品利用の機会を逸したことによる損害

■保証期間中は

保証期間中は保証書の規定に従って、お買い上げの販売店またはケンウッドのサービス窓口が修理をさせていただきます。
修理に際しましては保証書をご提示ください。

■出張修理／持込修理

「出張修理」、「持込修理」のどちらが適用されるかは機種によって異なります。保証書の記載をご確認ください。出張修理を依頼される時は、次のことをお知らせください。

- 製品名
- 製造番号（Serial No.）
- お買い上げ年月日
- 故障の症状（できるだけ具体的に）
- ご住所
（ご近所の目印等も併せてお知らせください。）
- お名前、電話番号、訪問ご希望日

■保証期間が過ぎているときは

保証期間が過ぎている時は、修理すれば使用できる場合には、ご希望により有料で修理させていただきます。

■修理料金の仕組み（有料修理の場合は、次の料金をいただきます）

- 技術料：故障した製品を正常に修復するための料金です。技術者の人件費、技術教育費、測定機器等の設備費や、一般管理費などが含まれています。
- 部品代：修理に使用した部品の代金です。その他、修理に付帯する部材等を含む場合もあります。
- 出張料：製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。別途、駐車料金をいただく場合があります。
- 送　料：郵便、宅配便などの料金です。保証期間内に無償修理などを行うにあたって、お客様に負担していただく場合があります。

ケンウッド全国サービス網

使いかたや製品に対するお問合せは、カスタマーサポートセンターをご利用ください。
修理などアフターサービスについてのお申し込みは、お買い上げの販売店または最寄りのケンウッドサービス窓口にお申しつけください。

（各サービス窓口の名称、所在地、電話番号は変更になることがありますのでご了承ください） **2007年8月現在**

地域・窓口	〒	所在地	☎
北海道			
札幌サービスセンター	007-0834	札幌市東区北34条東14-1-23	(011) 743-7740
東北			
仙台サービスセンター	984-0042	仙台市若林区大和町5-32-12(サンライズ大和1F)	(022) 284-1171
関東・信越			
さいたまサービスセンター	330-0801	さいたま市大宮区土手町1-2(JA 共済埼玉ビル1F)	(048) 647-6818
千葉サービスセンター	277-0081	柏市富里1-2-1	(04) 7163-1441
横浜サービスセンター	226-8525	横浜市緑区白山1-16-2	(045) 939-6242
新潟サービスセンター	950-0923	新潟市姥ケ山1-5-37	(025) 287-7736
目黒サービスセンター※	153-0042	目黒区青葉台3-17-9	(03) 3477-5411
中部・甲州			
名古屋サービスセンター	462-0861	名古屋市北区辻本通1-11	(052) 917-2550
静岡サービスセンター	420-0816	静岡市葵区沓谷5-61-1	(054) 262-8700
金沢サービスセンター	920-0036	金沢市元菊町21-87	(076) 265-5045
近畿・四国			
大阪サービスセンター	532-0034	大阪市淀川区野中北2-1-22	(06) 6394-8075
高松サービスセンター	760-0068	高松市松島町3-1	(087) 835-2413
中国			
広島サービスセンター	731-0137	広島市安佐南区山本1-8-23	(082) 832-2210
九州			
福岡サービスセンター	815-0035	福岡市南区向野2-8-18	(092) 551-9755
鹿児島サービスセンター	890-0063	鹿児島市鴨池2-15-10(パレス鴨池1F)	(099) 251-6347
沖縄サービスセンター	901-2101	浦添市西原4-36-17(株)物琉2F	(098) 874-9010

● ケンウッドサービス窓口　営業時間のご案内：
午前10 時から午後6 時まで
月曜日～金曜日（土曜、日曜、祝日及び当社休日を除く）

※ 目黒サービスセンターは修理持込専用窓口となっております。
電話でのお問合せはカスタマーサポートセンターへの転送にて承ります。

カスタマーサポートセンター

カスタマーサポートセンター

●ナビダイヤル　☎ 0570-010-114（一般電話・公衆電話からは、どこからでも市内通話料金でお問い合わせが可能です）
携帯電話、PHS、IP 電話からのご利用は　☎ (045) 933-5133　FAX (045) 933-5553

● 営業時間のご案内：
月曜～金曜　午前9 時30 分から午後6 時
土曜　午前9 時30 分から午後12 時、午後1 時から午後5 時30 分
（日曜、祝日及び当社休日を除く）

●住所　〒 226-8525　横浜市緑区白山1-16-2

定格

[アンプ部]

定格出力（Clear A：オフ時）
........40 W+40 W（20 Hz ～ 20 kHz, 0.7 %, 6 Ω）

実用最大出力（Clear A：オフ時）
...............50 W+50 W（JEITA 6 Ω）
...............60 W+60 W（JEITA 4 Ω）

（Clear A：オン時）
...............10 W+10 W（JEITA 6 Ω）
...............15 W+15 W（JEITA 4 Ω）

全高調波ひずみ率（Clear A：オン時）
....0.08 %（1 kHz, 1 W, 6 Ω）

周波数特性
LINE（AUX, TAPE, D.AUDIO）
............8 Hz ～ 30 kHz, +0 dB ～ –3 dB
CD, D-IN1, D-IN2, D-IN3
............8 Hz ～ 30 kHz, +0 dB ～ –3 dB

イコライザ偏差...............................20 Hz ～ 20 kHz, ±1.0 dB

最大許容入力電圧....................50 mV, 1.0 %（PHONO）

SN比（CD, D-IN1, D-IN2, D-IN3）.....120 dB（JEITA）

トーンコントロール特性
BASS
（TURN OVER 60 Hz）......... ±3.0 dB（at 60 Hz）
（TURN OVER 100 Hz）...... ±5.3 dB（at 60 Hz）
（TURN OVER 150 Hz）...... ±6.0 dB（at 60 Hz）
MID
（TURN OVER 1 kHz）........... ±6.0 dB（at 1 kHz）
（TURN OVER 2 kHz）........... ±6.0 dB（at 2 kHz）
（TURN OVER 3 kHz）........... ±6.0 dB（at 3 kHz）
TREBLE
（TURN OVER 5 kHz）........ ±5.6 dB（at 10 kHz）
（TURN OVER 7 kHz）........ ±4.9 dB（at 10 kHz）
（TURN OVER 10 kHz）..... ±3.0 dB（at 10 kHz）

入力端子（感度/インピーダンス）
PHONO... 3.5 mV/29 kΩ
LINE（AUX, TAPE）...........................200 mV/82 kΩ
LINE（D.AUDIO）................................100 mV/82 kΩ

出力端子（レベル/インピーダンス）
LINE（TAPE）.....................................200 mV/760 Ω

[デジタル部]

対応サンプリング周波数
.......32 kHz, 44.1 kHz, 48 kHz, 88.2 kHz, 96 kHz

Supreme EX（CD, D-IN1, D-IN2, D-IN3）
再生可能周波数 .... 1 Hz ～ 44 kHz

入力端子（感度/波長/インピーダンス）
光（オプチカル）
.....–24 dBm ～ –15 dBm（発光波長 660 nm ±30 nm）
同軸（コアキシャル）............................. 0.5 Vp-p/75 Ω

[チューナー部]

FMチューナー部
受信周波数範囲 .... 76 MHz ～ 90 MHz
アンテナインピーダンス...............................75 Ω不平衡

AMチューナー部
受信周波数範囲 .... 531 kHz ～ 1,602 kHz

[電源部・その他]

電源電圧・電源周波数.............AC 100 V, 50 Hz/60 Hz

定格消費電力（電気用品安全法に基づく表示）..........57 W

待機時消費電力..0.2 W以下

最大外形寸法
幅...270 mm
高さ...99 mm
奥行...318 mm

質量（重量）...5.3 kg（正味）

本製品は「JIS C61000-3-2適合品」です。

- これらの定格およびデザインは、技術開発に伴い予告なく変更することがあります。
- 極端に寒い（水が凍るような）場所では十分な性能が発揮できないことがあります。

お電話による使いかた・商品に関するご相談

カスタマーサポートセンター

受付時間	月曜日〜金曜日	**9:30 〜 18:00**
	土曜日	**9:30 〜 12:00、13:00 〜 17:30**
	※日曜、祝日及び当社休日を除く	

0570-010-114

※一般電話･公衆電話からは、市内通話料金でご利用いただけます。

- 携帯電話、PHS、IP 電話からは **045-933-5133**
- FAX **045-933-5553**

ホームページのサポート情報について

製品に関する一般的なご質問などをホームページにて、情報提供しています。ご活用ください。

http://www.kenwood.co.jp/faq/

修理などアフターサービスについて

お買い上げの販売店か、「**ケンウッド全国サービス網**」をご参照のうえ、最寄りのサービス窓口にご相談ください。

KENWOOD

株式会社 ケンウッド

〒 192-8525 東京都八王子市石川町 2967-3